

白神通信



【白神岳より遺産地域を望む】提供：白神山地世界遺産地域巡視員高瀬由里子

[contents]

- ◆ 藤里町町民祭 P 2
- ◆ 白神山地世界遺産地域巡視員会議（秋田県側） P 2
- ◆ 田苗代湿原モニタリング調査 P 3
- ◆ 管理棟・展示施設の冬支度 P 5
- ◆ 令和4年度中・大型哺乳類調査 P 6
- ◆ 2022年を振り返って
 白神山地世界遺産地域巡視員 高瀬 由里子 P 7
- ◆ 岳岱自然観察教育林の次世代シンボルツリー紹介 P 8

藤里森林生態系保全センター
令和4年12月26日 No.106

藤里町町民祭

藤里町町民祭が10月29日(土)に開催され、当センターはパネル展示と缶バッチ製作や木の枝を使ったキーホルダー“モックン”を製作する体験コーナーを企画して参加しました。

パネル展示では、令和3年度冬期間に倒れた400年ブナの在りし日の姿から倒れるまでの写真や、倒れた後をドローンで撮影した写真等を展示しました。来場者からは「400年ブナが倒れたんだよね。」といった惜しむ声や、「今までよく頑張ったよね。」といった労いの声がありました。また、白神山地における中・大型哺乳類の生息調査のため設置しているセンサーカメラで撮影された、大きなクマやカモシカの子ども、ニホンジカの写真を今にも鼻が触れんばかりに見入っていました。

体験コーナーの缶バッチ製作は、400年ブナの写真を題材としたところ、子供から大人まで幅広い年齢層の方々が楽しそうに缶バッチを製作し、400年ブナの思い出として缶バッチを持ち帰りました。モックン製作では、十人十色でそれぞれのアイデアによるモックンが生まれました。中でも枝を横にし、魚をイメージしたモックン魚を作った参加者もいて、その柔軟なアイデアに感心させられる場面もあり、固い頭を柔らかくしなければと思わせられました。

町民祭で展示した写真は、現在、センター展示室で展示しており見学や森林環境教育を希望される方はぜひ藤里森林生態系保全センターまで……！！

森林環境教育の一環としてモックン製作も出来ますよ！！

※土日祝除く 受付 9:00～16:00



みんなでモックン作り

第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)

令和4年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)が12月2日(金)に八峰町の文化交流センター「ファガス」で開催されました。

この会議は、巡視活動の効果的な実施と関係者間の情報共有を図ることを目的に、東北森林管理局委嘱巡視員、県市町、環境省東北地方環境事務所、東北森林管理局が出席し、年2回開催されています。



令和4年度は、白神山地への入山シーズンを迎える6月2日に1回目、登山等のシーズンが終えた12月2日に2回目を開催しました。

会議では、令和4年度の関係機関における主な事業実績、巡視活動の実施状況、合同パトロール実施状況、核心地域への入山状況、樹木損傷等の状況、ニホンジカの確認情報、ナラ枯れ被害の状況等について報告がありました。

巡視活動は、世界遺産地域へのアクセス道である白神二ツ森線、水沢ダム線、粕毛林道が大雪または大雨による被害を受け通行止めとなっていたこともあり、例年に比較して巡視日数は減少となりました。各アクセス道については復旧工事も進んでおり、令和5年の巡視活動への影響がないことを今は望むだけです。

当センターが事務局として企画する巡視員及び関係機関による合同パトロールは、第1回目を7月9日に二ツ森登山道ルートと藤里駒ヶ岳登山道ルートに分かれて実施、第2回目は世界遺産地域周辺区域の粕毛林道沿線において発生しているオオハンゴンソウの駆除作業を実施しました。オオハンゴンソウは在来植物の生態系に影響を及ぼす恐れがあるとして環境省指定の特定外来生物となっています。

また、秋田県側での世界遺産地域における樹木等の損傷やマナー違反などの情報や発見は確認されませんでした。

ニホンジカの日撃情報（一般からの通報、センサーカメラ等による撮影情報。）については、環境省から報告がありました。

ナラ枯れ被害は、白神山地世界遺産地域では確認されていません。

各機関からの報告後に行われた意見交換では、巡視員の皆様から、令和5年度の巡視方針、核心地域への入山規制、ニホンジカの駆除、オオハンゴンソウの駆除等、活発な意見・質問がありました。

巡視員、関係機関の皆様による幅広い情報共有ができ、有意義な会議となりました。最後に、令和4年9月から新規巡視員として活動いただいている3名をご紹介します。フィールドでお会いすることもあるかと存じますので、よろしくお願い致します。



熊谷さん



佐藤さん



白鳥さん

田苗代湿原モニタリング調査

田苗代湿原は、標高800mほどの高層湿原で、湿地性の面積は約3.81ha、藤里駒ヶ岳黒石登山口から徒歩約15分のところに位置しています。春から夏にかけて沢山の花々を楽しむことができ、5月のミズバショウ、リュウキンカからはじまり、6月から8月には順にニッコウキスゲ、キンコウカ、タチギボウシが咲き誇ります。秋には、湿原を囲む山々が美しく輝く、ブナの森の「黄葉」も見られ、多くの観光客が訪れます。この田苗代湿原では、平成2年（1990年）頃から湿原の植生に変化が見られるようになりました。特にハイイヌツゲやヨシが増加し、他の湿原植生に影響を与えているのではないかと考えられはじめたのです。人為的な影響ではなく自然に遷移が進んでいるものと考えられ、地球温暖化による平均気温の上昇が影響している可能性も考えられます。

そこで、東北森林管理局をはじめとする関係機関では、湿原の取扱いについて協議し、平成24年（2012年）から田苗代湿原の植生遷移モニタリング調査を毎年実施することとしました。調査方法は、定点調査法（定点からの写真撮影）で、撮影定点は、木道が敷設されており直接湿原に影響を与えない箇所を選定し、時期は、春期5月下旬、夏期7月上旬、秋期10月上旬に実施しています。

これまでのデジタルカメラによる定点撮影は、横方向からの撮影であるため奥行の把握が難しく、植生の変化を捉えにくいといった短所があったため、令和2年度からは、無人航空機（ドローン）を用いた撮影方法も取り入れて実施しています。ドローン撮影画像では、上空からの撮影のため侵入種の分布の変化を捉えやすく、面積もパソコン上で算出でき、自動航行により毎回同じ画角の映像が得られ、年ごとの比較が容易となります。降雨や風に弱いという特性もありますが、来年以降も定点撮影調査に加え、ドローン画像によるモニタリングも継続する予定です。

定点撮影、ドローン撮影、それぞれ令和2年度から令和4年度の写真を並べてみました。ドローン撮影写真を見比べると、植生分布に目立つ変化は見られないようです。



R2.10.6 定点撮影写真



R2.10.21 ドローン撮影写真



R3.10.19 定点撮影写真



R3.10.19 ドローン撮影写真



R4.10.20 定点撮影写真



R4.10.20 ドローン撮影写真

管理棟・展示施設の冬支度

登山シーズンも終わり、水沢（八峰町）にある巡視管理棟と、岳岱自然観察教育林にある多目的展示施設の冬支度を行いました。

積雪による被害が生じないように、窓ガラスなどを板で覆い、軒先に鉄の支柱による補強を施しました。



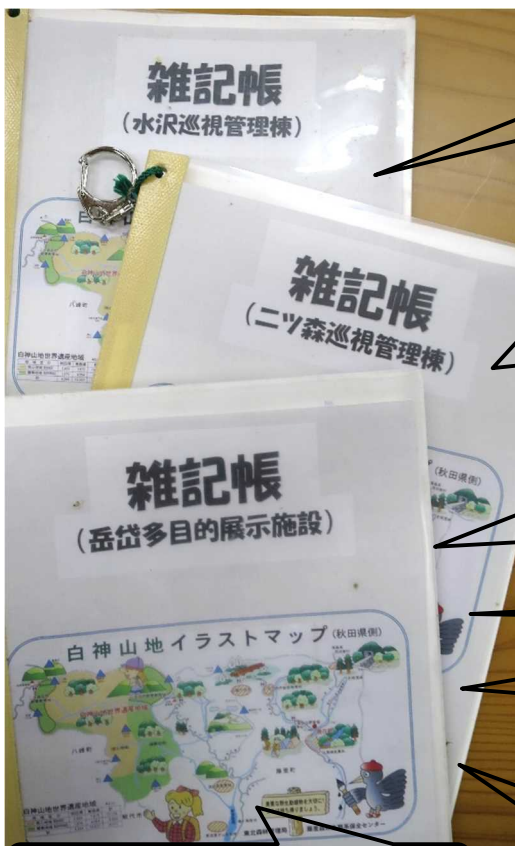
水沢巡視管理棟冬囲い



岳岱展示施設冬支度

巡視管理棟と多目的展示施設に常備していた雑記帳には、訪れた登山者の方々から「白神楽しい」「ブナ林の空気がおいしい」「この自然を維持保全している方々に感謝です」など、心温まるコメントが多く記載されていました。

来年の登山シーズンにも登山者の方々気持ちよく利用していただけるよう、これからも施設の維持管理に努めて参ります。



石灯籠が来るとは白神楽しい!!

岳岱自然観察教育林のルートが平日開通の2ヶ月連続。ブナ林の空気がおいしいです。400年ブナが見れば心が癒えます。(信長が見れば良かったです) 鳥嶋

藤屋崎ヶ岳を登った帰りに丘を寄り道した。この自然を維持・保全している方に感謝です。三浦氏

400年ブナ見るとか火来ると、感謝です

モリカ"エル"がともかわいからた!!
ア

おぼろしい紅葉の葉の下。

自然の雄大さを感じる事ができた。ブナの森を見る事ができてよかった。

令和4年度中・大型哺乳類調査

藤里森林生態系保全センターでは、例年、白神山地世界遺産周辺地域の国有林（秋田県側）にセンサーカメラを設置し、哺乳類の生息状況を調べています。また、このデータを利用し、ニホンジカの生息状況について併せて監視を行っています。

前回発行の白神通信（No.105）では「8月までニホンジカの撮影は無かった。」と記載していましたが、令和3年度の大雪や大雨による災害等で林道が通行止めとなりデータ回収が出来なかった箇所について、順次データ回収を行い撮影状況について確認したところ、8月以前では6月に1頭、7月に延べ2頭のニホンジカが撮影されていました。

本調査で設置しているセンサーカメラについては、12月までのデータ回収を終えており、現在データの確認作業を進めているところです。撮影された哺乳類については取りまとめができ次第白神通信で発信したいと思っております。

また、今年度より白神山地世界遺産周辺地域の民有林におけるニホンジカの生息状況調査のため、能代市や八峰町との連携により、能代市の民有林に2台、八峰町の民有林に7台、合計9台のセンサーカメラを設置し生息状況を監視してきました。

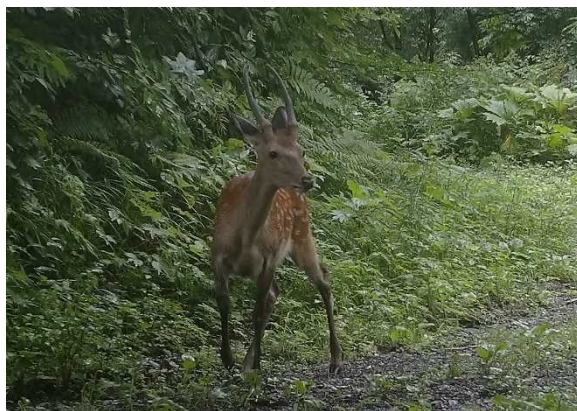
今回は、八峰町に設置している7台のセンサーカメラの調査結果についてお知らせします。

八峰町民有林へは、沿岸に4台、峰浜塙地区に1台、水沢ダムの奥にある林道沿いに2台の計7台のセンサーカメラを設置しました。以前白神通信（No.105）で「八峰町沿岸に設置しているセンサーカメラでニホンジカが延べ2頭、イノシシが延べ1頭撮影された」とお伝えしていました。その後もニホンジカとイノシシが撮影されており、最終的にこの箇所では、ニホンジカが2箇所から延べ12頭、イノシシが2箇所から延べ3頭撮影されました。峰浜塙地区では、ニホンジカが延べ3頭、イノシシが延べ1頭撮影され、水沢ダムの奥にある林道沿いではニホンジカが延べ1頭撮影されています。

なお、八峰町では、県や猟友会と協議し、民家が近く、銃が使えない箇所については罠の使用を検討するなど、ニホンジカやイノシシへの対応を進めているとのことでした。

当センターでは、今年度も、冬期間のニホンジカ生息状況調査のため、八峰町と連携し民有林へセンサーカメラを設置することとしています。

また、新たな試みとして、ドローンを使用した冬期間のニホンジカ生息状況調査を検討しているところです。



7月15日八峰町の国有林で撮影



イノシシ(8月26日八峰町民有林)



ニホンジカ(10月30日八峰町民有林)

2022年を振り返って

地域より

白神山地世界遺産地域巡視員 高瀬 由里子

今年も白神山地のあちこちを、いろんな季節、いろんな時間帯に歩きました。2022年の印象深かったことを、大きなトピックから個人的なことまで時系列で並べてみると、

豪雪 → 400年ブナの倒伏 → 向白神岳 → 残雪期の樺岱ルート → ニホンジカのフン → 天狗岳の野性味 → マダニに刺されたこと → 8月の大雨 → 藤琴川ロングルート遡上 → オオハンゴンソウ駆除への参加 → ブナの実り → 小岳へ行けるようになったこと……等々、盛りだくさんな一年でした。

白神山地のブナの森は、かつて地域の人たちの手で守られてきました。その結果として（思いがけず）世界遺産にもなったわけですが、この大事な宝を次世代へ、後世へ、残していくことは地域みんなの大事な使命だと考えます。その一端を担うことができる巡視員としての活動を、これからも粛々と続けていきたいと思えます。来年は世界遺産30周年。どんな風景に出会えるか。今から楽しみです。



藤琴川ロングルート遡上



キタオウシュウサンショウウオ(藤里駒ヶ岳)



小岳のクマ棚

岳岱自然観察教育林の次世代シンボルツリー紹介

これまで、藤里町の岳岱自然観察教育林で、白神山地のシンボルとして親しまれてきた「400年ブナ」が、令和4年3月21日に倒伏しているのが発見されました。

藤里町と東北森林管理局では、その400年ブナを受け継ぐ新たなシンボルツリーとしてブナとシナノキの巨木を選定し、この二つの巨木について「岳岱大ブナ」、「こまいぬシナノキ」と愛称を付けたことを12月20日に公表しました。

いずれも岳岱自然観察教育林へと続く遊歩道周辺にあり、これまでも藤里町や東北森林管理局で作成している看板やパンフレットで紹介している巨木です。

「岳岱大ブナ」は、遊歩道入口から右側に進むとほどなくブナの二次林の中にひととき大きなブナの巨木が見えます。推定ですが樹齢300年は超えているのではと言われています。「こまいぬシナノキ」は、この遊歩道をさらに進むとすぐ左側にあるコブだらけの大きなシナノキで、上を見上げると、まるで狍犬の顔のようなコブがあり、岳岱自然観察教育林入り口の守り神のような雰囲気です。

今後は、雪解けをまって藤里町において巨木への誘導歩道や岳岱大ブナの進入禁止柵といった整備を行う予定であり、関係機関と協議していくこととしています。



シンボルツリー案内図

※400年ブナについては、白神通信 No.103 でも特集していますので、是非ご覧下さい。(https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/sirakami/attach/pdf/kouhou_si-4.pdf)



【岳岱大ブナ】

幹周り推定4m、樹高推定29m



【こまいぬシナノキ】

幹周り推定5m、樹高推定28m

※消雪後に改めて幹周りや樹高について測定することとしています



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL: 0185-79-1003

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>

